

採用情報 Q&A

Q2 採用されやすい試験区分はありますか。また、試験区分によって入庁後のキャリアパスに違いはありますか。

違いは全くありません。国税庁では総合職試験の全区分（理系区分でもOK）を対象に職員採用を行っています。入庁後についても、試験区分によってキャリアパスが限定されることはなく、本人の希望と能力などに応じて経験を積んでいくこととなります。

Q4 女性にとって働きやすい職場なのでしょうか。

最近8年間の国税庁総合職（1種）職員の採用数に占める女性の割合は30%に上っており、国税庁の様々なフィールドで女性職員が活躍しています。また、育児休業などの家庭と仕事の両立支援も充実しており、ライフステージに応じた働き方をすることが可能です。

Q1 学生時代に税法や会計などを勉強したことがなくても採用されるのでしょうか。

国税庁総合職職員のバックグラウンドは多彩です。出身学部だけを見ても法学部や経済学部だけではなく、文学部、教育学部などのほか、理学部や工学部など理系の出身者まで。入庁後、仕事をする上で必要な専門知識は、日々の業務を通じて習得していくことができるほか、各種研修や留学の機会も準備されているので心配ありません！

Q3 国税局・税務署など、国税庁本庁以外での勤務はありますか。

総合職で採用されると霞ヶ関の国税庁本庁や財務省での勤務が基本となりますが、組織のマネジメントを担うことが期待される総合職職員には地方の税務署や国税局での勤務の機会も設けられています。入庁後早い段階では、3年目から税務署で国税調査官として税務行政の最前線を体験する例が一般的です。

Q5 研修・留学はどのようなものがありますか。

入庁1年目には各府省共通の合同研修に参加するほか、3年目・4年目にはそれぞれ税務大学校において数カ月単位で税法・簿記会計などを学ぶ機会が設けられています。また、欧米のロースクールなどに毎年職員を派遣しており、高度な知識をその後の業務に活かすため、研鑽に励んでいます。

採用担当スタッフからのメッセージ

「正直者には尊敬的、悪徳者には畏怖的」国税庁の開庁時に、当時のGHQ内国歳入課長であったハロルド＝モス氏から贈られた言葉です。善良な納税者からは信頼され、一部の悪質な納税者からは恐れられるような存在であれ、ということを示しています。

この言葉が贈られてから約70年経ちますが、今も変わらずこの使命を胸に刻み、困難な課題に挑む約56,000人の職員が国税庁にはいます。このパンフレットでは、国税庁の魅力のほんの一部しかお伝えできませんでしたが、使命感・正義感を持って仕事に当たる職員の熱い想いが伝わったでしょうか。

就職活動中の皆様は、時に進路に迷い途方にくれるときもあるかもしれません。「就職活動」は皆様にとって重要なイベントだと思いますが、「就職活動」そのものがゴールではありません。皆様自身が、自分はどのような人生を歩みたいのか、自分はどのフィールドで働きたいのかということ冷静に、そして真剣に考えることが重要ではないでしょうか。

国税庁は、あらゆる行政サービスの基礎となる税の確保を行う唯一無二の歳入官庁であり、我々の代わりは存在しません。我々に与えられた使命は、いわば「国家の原動力」を確保し続けることと言えます。それを実現するため、大きく変化する経済・社会情勢の中、たとえ答えが用意されていない問題に対しても、自ら最適解を創造しなければなりません。困難かつ厳しい場面に遭遇し、悩むことも少なくありませんが、非常にやりがいのある仕事であることは間違いのないと言えます。

「国税庁に入庁するために何か知識が必要ですか？」と皆様から頻りに質問を受けます。大事なことは、日々の仕事やそれ以外の様々な経験を通じて自分を高めていくことだと思います。国税庁は、そういった成長し続けられる環境を提供できると固く信じています。

我々とともに、税務行政のダイナミズムを体感し、国家の根底を支える税務行政のグランドデザインを描いてみませんか。

皆様にお会いできること、一緒に働ける日を心待ちにしています。

平成30年3月
国税庁長官官房人事課
採用担当一同

<採用実績>

採用年度		H26	H27	H28	H29	H30(予定) ^{※1}
採用者数		9	9	8	8	11
性別	男性	8	5	5	5	8
	女性	1	4	3	3	3
試験区分	総合職(大卒法律)	5	3	4	3	6
	総合職(大卒経済)	1	3	2	2	3
	総合職(大卒教養)	-	-	-	-	1
	総合職(院卒行政)	2	3	2	3	1
	総合職(院卒法務) ^{※2}	1	-	-	-	-

※1 平成30年4月入庁予定者数 ※2 「総合職(院卒法務)」は司法試験合格者を対象としている。